

28年8月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年8月1日～ 28年8月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。8月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		28/8月	9月	10月
伐採動向	スギ	8.3	20.0	△ 10.0
	ヒノキ	△ 20.0	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	8.3	△ 10.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 33.3	0.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	10.0	△ 25.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	25.0	25.0	25.0

・スギ原木の入荷は8月、9月の増加が10月は減少。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツは8月の横ばいが、9月、10月は減少。エゾ・トドは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ原木の消費は8月の増加が、9月、10月は減少。ヒノキは8月、9月の減少が、10月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ原木の立木在庫は8月の増加が、9月は減少し、10月は横ばい。ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して横ばい。エゾ・トドは3ヵ月連続して増加。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林の素材生産請負の現場を実行しており、通常の伐採量である(北海道)。
- ・間伐材を伐採中(東北)。
- ・主伐、間伐を並行して行う(中国)。

(出材・販売動向)

- ・国有林の素材生産請負の現場を実行しており、通常の出材・販売量で推移している(北海道)。
- ・出材・販売の調整はない(東北)。
- ・スギ材が安くなったが、ヒノキへの切り替えに時間がかかる(中国)。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ちの立木在庫が少なくなったので、積極的に国有林の立木公売で買い付けをする予定(北海道)。